

【今昔物語】

【】(今は昔、貫之が土佐守になりて)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。(佐賀県)

今は昔、貫之が土佐守になりて、下りたりけるほどに、任果ての年、七つ八つばかりの子、えもいはずをかしげなるを、限りなくかなしうしけるが、とかくわづらひて、失せにければ、泣きまどひて、病つくばかり思ひこがるほどに、月ころになりぬれば、「かくてのみあるべき事かは。上がりなん」と思ふに、「児のここにたなにとありしはや」など思ひ出でられて、いみじう悲しかりければ、柱に書きつけける。

都へと思ふにつけて悲しきは 帰らぬ人のあればなりけり
と書きつけたりける歌なん、今までありける。

(注)

- ・貫之：紀貫之
- ・土佐守：土佐の国の長官
- ・任果ての年：長官の任期が終わった年
- ・限りなくかなしうしけるが：深く愛し、育てていたが
- ・月ころになりぬれば：何か月かたってしまったので
- ・かくてのみあるべき事かは。上りなん：こうしてばかりいられようか。都へ帰ろう
- ・児のここにたなにとありしはや：子供がここでこんなことをしていたなあ

問一 「えもいはずをかしげなる」の口語訳として最も適当なものを次の中から選べ。

ア もてあますほどいたすらである

イ なんとも言いようもないほどかわいらしい

ウ なんともおもしろくひょうきんである

問一 「書きつけける」の主語を文章中から抜き出して書け。

問三 「帰らぬ人」とはだれのことが。文章中から抜き出し、十字以内で書け。

問四 この文章の主題として最も適当なものを次の中から選べ。

ア 都を懐かしむ気持ち イ 病む子を思う気持ち

ウ 別れを悲しむ気持ち エ 亡き子を慕う気持ち

「解答」

問一 イ

問二 貫之

問三 七つ八つばかりの子

問四 エ